

お嫁さんの家には、長屋門がある！でも自分の家には長屋門が無く、曲がり屋が外から丸見えです。僕は悔しいし、お嫁さんが形見の狭い思いをしないよう頑張って長屋門を造ろうと決心しました。





お嫁さんの家と本家にも負けない立派な長屋門を造ろう。

江戸時代だったら長屋門を造ることができた家は「苗字帯刀祓長屋門」と言われていましたが、今は明治時代ですので、この禁制は解かれています。



お嫁さんの自家

自宅の長屋門のイメージ

長屋門の造りは、正面入口中央は「立ち隠れ」といって90cmほど引っ込んでいます。

左右は、見張り番や使用人の部屋に、そして穀物や農作業の道具を入れる倉庫になっています。屋根は、又首組といっって丸太材を合掌状に組み、それに竹を渡し、屋根材の萱を葺きます。屋根裏は次の屋根葺き用の萱や藁を収納するところです。



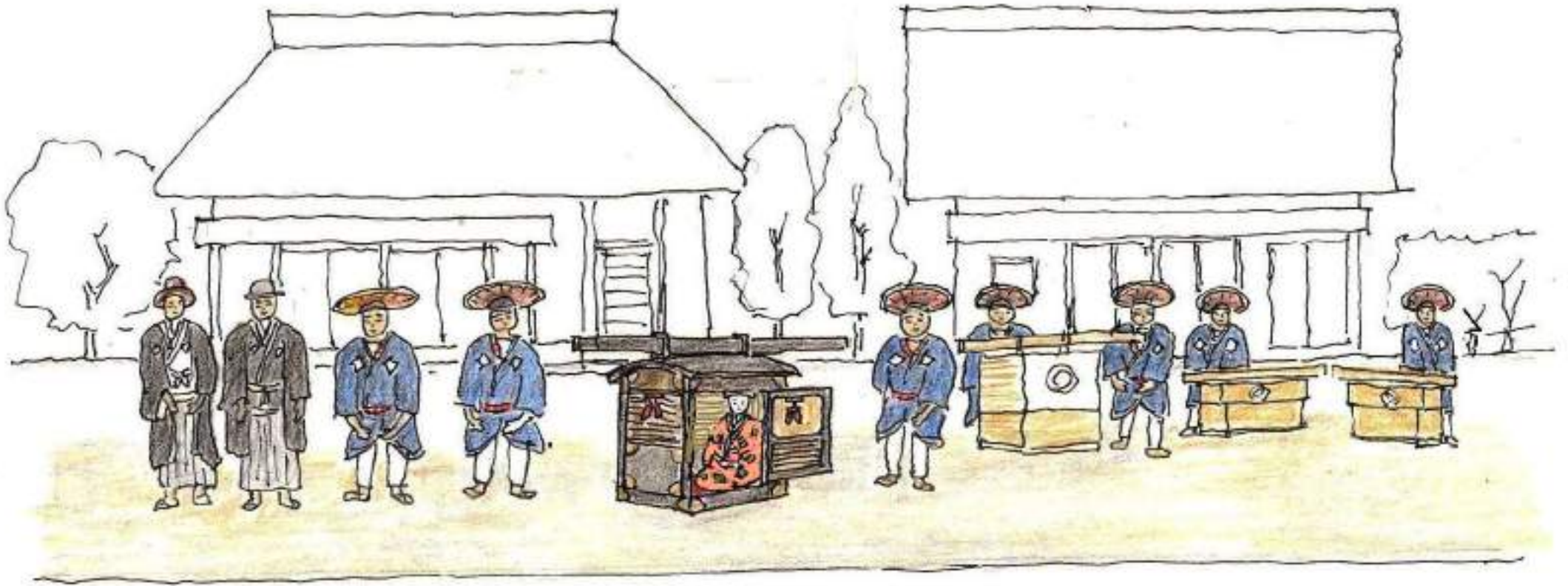


主屋の曲がり屋の前に堂々とした長屋門が完成しました。

建物が出来たことにより屋敷に落ち着きができ、南風も防いで中庭での農作業もしやすくなりました。長屋門の中では雨の日には野菜を広げて置くことができるようになり、大変重宝にしています。



そして祝言の日を迎えました。お嫁さん  
はお供の行列を連れて駕籠に揺られ、  
道々挨拶をしながらやってきます。  
現在でもこの駕籠が長屋門に保存されて  
いる家が数軒あります。





行列は長屋門の中央入口を通り、  
中庭に入ってきました。お嫁さんが  
駕籠から降り本間に上がると、祝

言が始まりました。僕はお嫁さんが  
来たことと長屋門ができたことで気  
持ちが高揚していました。



祝言は延々と続き、座敷でも長屋門の前でも、皆がお酒に酔って大喜びし、歌って踊っていました。





集まってくれた村の人たちが、めでたしめでたし。ともに白髪になるまでと祝ってくれました。





めでたく分家に長屋門が建ちました。

おわり

本家

分家

